

【40】 沢山の虫は恐ろしい

私の若い頃の恥ずかしい話ですが、飲屋のトイレがふさがっていてどうしてもガマンが出来ず、裏道で板塀に向かって立ちションに及びました。

すると目の前の黒い板塀の壁がユラッと動いたような気がし、さらに壁面を波のような動きが広がっていくのです。

何事かと目を凝らすと、何とまあ壁一面を埋め尽くした無数のゴキブリが一斉に動きだしたのです。

黒い板塀と思ったのは、ゴキブリで覆われていたから黒く見えたのです。

腰を抜かして出るものも停まり、ほうほうの体で逃げ出しました。

その後、同様の話をいくつか見つけました。

椎名誠が、中国の成都へ旅したとき、夕暮れの空港のトイレで、個室の内壁が残照の薄暗い中で妙に白かったのが、実は壁一面を埋めつくしているウジ虫だったとの事です。（「新宿赤マント」、週刊文春の連載随筆）

生物学者の池田清彦が、タイの田舎のトイレで個室のドアをボタンと閉めたら、数十匹のゴキブリが空気をふるわせて一斉に飛びたったという、彼の人生で5番目に恐かったという体験を紹介しています。（「虫の目で人の世を見る」、平凡社新書）

小説家の宮本 輝の旅行記に、ルーマニアのトイレに入ったときの情景があります。

原文を引用すると、

・・・・・・トイレのドアを開け私は灰色の壁を見た。

やがて灰色の壁は少しずつ白くなっていった。

白い壁を一面灰色にしていたのは数千匹もの蚊だったのである。

私がいかなる格好で、いかなる悲鳴をあげてトイレから転がり出たかは、書く必要は無いであろう。・・・・・・“（「異国の窓から」、光文社文庫）

トイレの話ばかりで失礼しましたが、トイレには沢山の虫が集まりがちで、人間はたくさん集まっている虫には恐怖を覚えるということを紹介しました。